

2次元設計、製図を「もっと簡単に、もっと効率よく」と、設計者の要求は日々進化しています。それはビギナーからプロユースまで様々な分野に共通して言える事です。

「HandyCAD Mark II」は長年培(つちか)われたノウハウと洗練されたユーザビリティで設計者を日々のストレスから開放し、設計者の新たな発想をサポートしていきます。

- 業界最高水準を誇るダイレクトコンバータを搭載
- 複数の図面もストレス無く安心操作
- 直感的なマウスオペレーションで操作性がアップ
- 統一されたコマンドプロパティで可読性がアップ
- Office アプリケーションとのシームレスな連携を実現
- テクニカルな分野もアドオン機構でソリューション解決

✓ ミルアプリケーション

✓ ワイヤードアプリケーション

✓ アドバンスコマンド

✓ ラスタアプリケーション

これからも成長し続ける「HandyCAD Mark II」の様々な機能の一部をご紹介します。

### 図面資源の有効活用

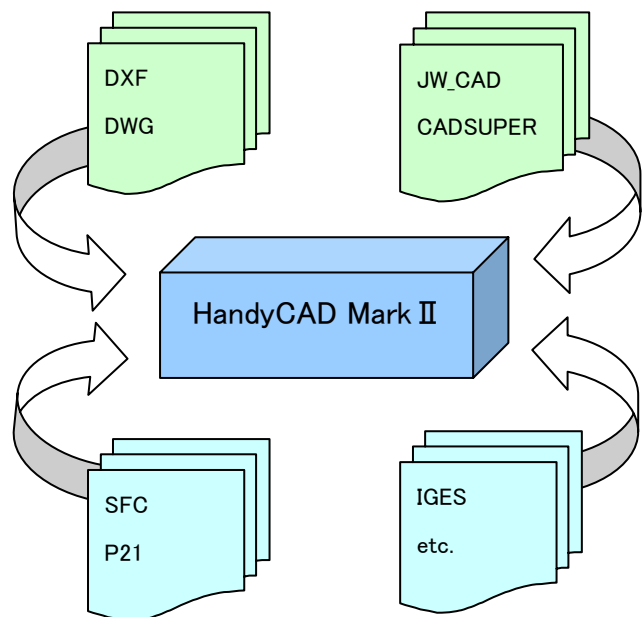
CADの世界で図面とは、設計者の知識と技術の結集であり貴重な資産でもあります。

「HandyCAD Mark II」は20種類を超えるダイレクトコンバータを標準搭載していますので、既存の図面資源を有効に活用することができます。

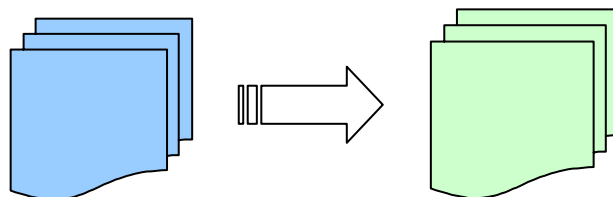
特に、業界標準と位置づけられる DXF, DWG フォーマットに関しては、最新のバージョンから粗悪なフォーマットまで、幅広く対応しており、今まで困難とされていたレイアウト空間や、一般的にトラブルが多いとされる寸法線に関する、業界最高水準の変換精度を誇っています。

また、建築土木業界で標準化が進められているSXFフォーマットにも逸早く対応しています。

他にも、フリーソフトの JW\_CAD やアンドール社の CADSUPER などについても積極的にサポートしていますので、既存の図面資源が無駄になる心配はありません。



大量の図面を一括して印刷したり、他フォーマットへ変換したりと、バッチ的処理が要求される場面においても「HandyCAD Mark II」は十分威力を発揮します。



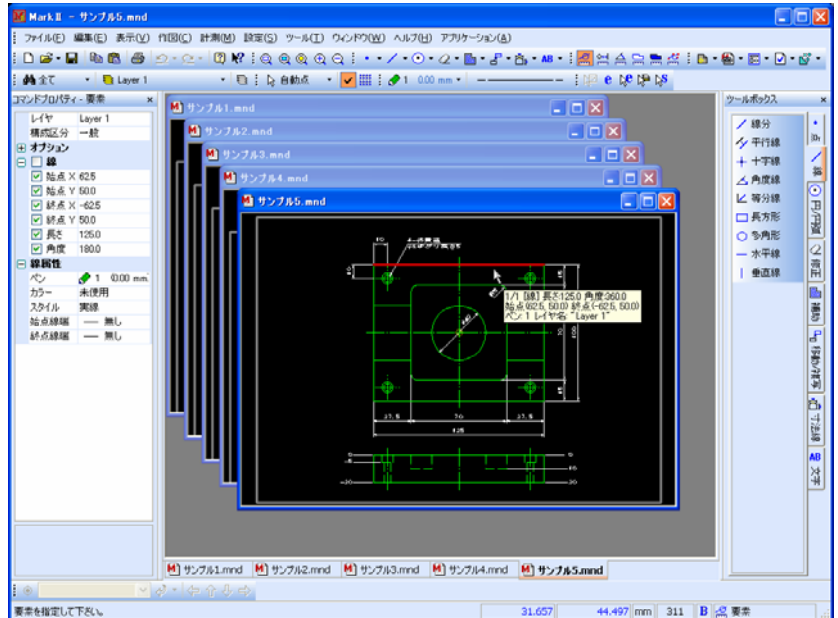
## PC資源への配慮

設計者の思考は同時に複数の図面を処理できますし、当然ながらそれに耐え得るCADで無くてはなりません。

「HandyCAD Mark II」はPCの資源が許す限り複数の図面を同時に編集する事が可能となっており、3次元データなどのように大量の微小線分で構成された図面であってもストレス無く操作する事ができます。

また、メモリの消費量に関しても、有限資源である実メモリの使用を極力抑えるテクノロジーを使用していますので、通常業務においてメモリ不足に陥る心配はありません。

万が一、作業途中にトラブルが発生(OSのハンガアップなど)したとしても、図面の保護機能が備わっていますので、復旧作業は容易に行えます。



## 洗練されたマウス操作

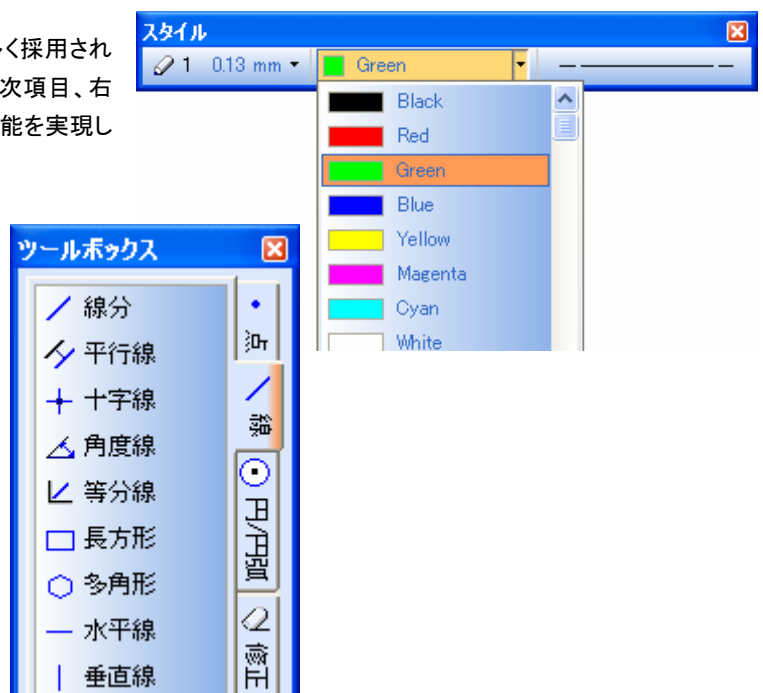
マウス操作において認識したい座標や要素をやさしくナビゲートしてくれる、そんな心配りを体感できるのが「HandyCAD Mark II」です。コマンドによっては座標と要素の同時受付が可能なので、従来のCADのような切り替え操作は不要です。

また、認識座標(端点、交点など)別に表示マーカータイプを指定したり、ツールチップの表示 ON/OFF など、きめ細かな設定で更に使い易くできます。

マウスホイールについても、回転はズーム、ドラッグは移動、ダブルクリックは原図と、当たり前と思われる操作を当たり前のように実現しています。

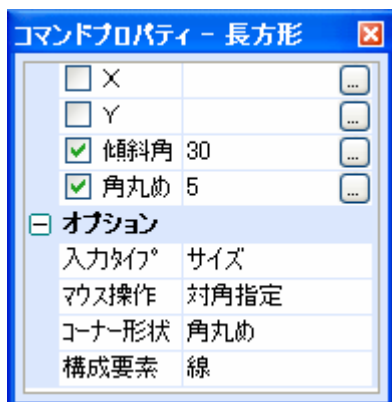
属性バーなどのボタン操作においては、携帯電話などにも多く採用されている「長押しボタン」機能を採用する事により、左クリックは次項目、右クリックは前項目、長押しはリスト表示と、省操作で様々な機能を実現しています。

また、頻繁に使用するコマンド起動ボタン(ツールバーボタンなど)では、ボタンダウンのアクションだけでコマンド起動できますのでレスポンスの良い操作が体感できます。



## フレキシブルなコマンド操作

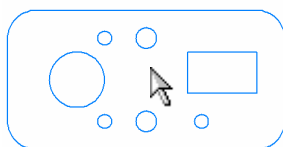
コマンドを正常に動作させる為には、適切なパラメータを指示しなければいけません、ダイアログのようにコマンド毎に異なるユーザーインターフェースでは設計者の思考を妨げてしまいかねません。



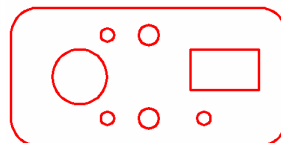
「HandyCAD Mark II」はコマンドプロパティと称する共通インターフェースの採用により、この問題を解決しています。

コマンドに必要なパラメータは一覧で表示され、各パラメータは随時入力を受け付けていますので、フレキシブルなオペレーションが可能となっています。

また、各パラメータには参照ボタンが付いていますので、必要な時には何時でも CAD 要素から情報を参照できます。



ループ認識オペレーションにおいても、閉じた領域をワンクリックで自動認識する機能や、矩形内の複数領域を一括認識する機能など、今までに無い軽快なオペレーションを



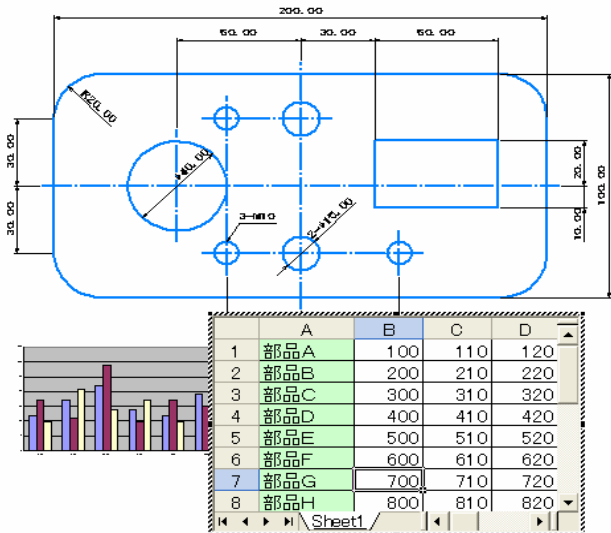
実現しています。

## Office アプリケーションとの親和性

Office アプリケーションと連動させる事により、ワンランク上のドキュメント作成が可能です。

図面に Excel や Word などのオブジェクトを貼り付けて編集する事も当然可能ですが、貼り付けたオブジェクトを CAD 図形に変換する事ができますので、CAD としての編集や他フォーマットへ変換する場面などで威力を発揮します。

逆に、Excel や Word などに「HandyCAD Mark II」の図面を貼り付け、ダイレクトに編集する事もできます。



## 拡張性

「HandyCAD Mark II」はアドオン形式で機能を追加する事ができますので、建築・土木分野から設計・製造分野まで幅広いソリューション展開が可能となっています。また、ユーザーカスタマイズ用として汎用性のあるVBスクリプトを用意していますので、小規模なカスタマイズなどに非常に適しています。

## 動作環境

OS	日本語 Windows 2000、XP(32bit)、Vista(32bit/64bit)、7(32bit/64bit)	XP(32bit) を推奨
CPU	Intel Core 1GHz 以上、または互換プロセッサ	
メモリ	512MB 以上	
ディスプレイ	1024 x 768 以上	1280 x 1024 以上を推奨
ハードディスク	500MB 以上の空き容量	
入力装置	マウス、キーボード	ホイール付きを推奨
出力装置	プリンタ:Windows 付属、または各メーカー提供のドライバ プロッタ:各メーカー提供の HP-GL 準拠のドライバ または SYSTEM-I提供の HP-GL ドライバ	※Windows7 は SYSTEM-I 提供のドライバは使用不可
ライセンス	ハードライセンスのみ	USB タイプ

※記載の社名および製品名は各社の登録商標または商標です。

## 基本仕様

データ精度	倍精度データ、倍精度演算
図形要素数	要素数無制限(コンピュータ環境に依存)
図面編集	図面数無制限(コンピュータ環境に依存)
基本図形	点、線分、ポリライン、円・円弧、楕円・楕円弧、文字、曲線、ハッチング、ピクチャー
複合図形	寸法線、集合、ユニオン、シンボル、リンク図面
座標認識	自由点、グリッド点、ラスタ点、線上点、中心点、極点、中点、端点、交点、図枠角、参照点
座標入力	XY座標(絶対・相対)、極座標
レイヤ	4096 層(書込み・参照・表示・非表示)、名称設定、縮尺設定可能 表示フィルタによるグループ管理、色/線種/線幅設定可能
ペン(線幅)	16 本
色	256 種類
線種	実線、破線、一点鎖線、二点鎖線、三点鎖線、点線、補助線 ※任意に線種作成可能
線端	矢印、上矢印、下矢印、丸印、抜き丸、黒丸、三角、黒三角、スラッシュ、平行、インテグラル、抜き三角、四角、抜き四角、黒四角 ※任意に線端作成可能
文字表示	ベクトルフォント、TrueType フォント
イメージ	BMP、JPEG、TIFF、PNG、WMF、EMF
クリップボード	OLE オブジェクト、BMP、WMF
UNDO/REDO	図面単位で回数無制限(コンピュータ環境に依存)
データ保護	指定時間間隔でリカバリーファイルとして保存、排他制御
コンバータ	AutoCAD(DWG・DXF) SXF(P21・SFC) JW_CAD(JWC・JWW・JWK・JWS) IGES(2D) CADSUPER(SX・JX・FX) EasyDraw(ED) HandyCAD(HND) HPGL
カスタマイズ	Microsoft Visual C++ Microsoft VB Script OLE Automation コマンドマクロ

※記載の社名および製品名は各社の登録商標または商標です。